

<令和8年1月定例記者会見>

1 開催日時

令和8年1月8日（木）午前10時00分～午前10時30分

2 場所

滝沢市役所 庁議室

3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、岩手日報社、河北新報社

4 発表事項

冒頭、武田市長から新年の挨拶及び抱負について話があった。

(1) 葛巻町とのふるさと納税に係る連携協定の締結及び協定式の実施について（観光物産課）

葛巻町とのふるさと納税に係る連携協定の締結を行い、その協定式を本日の定例記者会見終了後に開催いたします。

本協定は、滝沢市と葛巻町の地場産品を組合せて、ふるさと納税における共通返礼品として提供し、各市町の地域資源の認知度向上や、特産品の販路拡大、関係人口拡大・創出を目的としております。

本市における、ふるさと納税における共通返礼品に関する自治体間連携協定の締結は初めてです。葛巻町とは、同町に所在する株式会社岩手くずまきワイン様において滝沢市産リンゴワインのポムを製造いただくなどのつながりもあるため実現に至ったものです。

共通返礼品は岩手くずまきワイン様で製造している、「山ぶどうワインと滝沢りんごワインポム」、「山ぶどうワインと滝沢りんごワインポムライト」のセット、「ほたるスパークリング赤と滝沢りんごワイン - ポムシードル - 」の赤白ワインセットの3種類でございます。

これらの返礼品について、本市では、「ふるさとチョイス」、「楽天ふるさと納税」、「ふるなび」、「さとふる」など計11サイトで本日より公開しております。

今後も、葛巻町と更なる共通返礼品の開発に努め、両市町における特産品の認知度向上や販路拡大に努めてまいります。

報道関係者の皆様におかれましては、定例記者会見終了後に協定式を実施しますので、引き続き取材方よろしくお願いいたします。

(2) 滝沢市IPUイノベーションフォーラム2026の開催について（企業振興課）

1月22日（木）午後1時から、滝沢市IPU第2イノベーションセンターにおいて、「滝沢市IPUイノベーションフォーラム2026」を開催します。

このフォーラムは、滝沢発の新たなビジネスの創出や人材育成を推進するため、産学官連携、企業間連携、異業種連携等のきっかけを作るためのヒントと交流の場を作ることを目的に、例年開催しております。

フォーラム当日は、東北経済産業局による標準化セミナーの実施、岩手県立大学オズキアツト鈴木厚人学長から、さらなる産学官連携を目的とした、「企業学群構想」についてお話しいただくほか、滝沢市IPUイノベーションセンター入居企業と岩手県立大学との

共同研究成果の発表・展示等を行う事を予定しております。

本フォーラムを通じ滝沢市 I P U イノベーションセンター及びパークの意義や岩手県立大学との連携について知ってもらい、企業間または大学等の関係機関との連携や社員等の人材育成を図ることを目的とし、滝沢市の取組について広く発信し企業誘致、将来の市内移住へと繋げていきます。

フォーラム終了後には交流会を予定しており、各企業等との交流を図ります。

(3)「第19回滝沢市郷土芸能まつり」の開催について（文化振興課）

1月25日（日）に「第19回滝沢市郷土芸能まつり」をビッググループ滝沢で開催します。このまつりでは、滝沢市の郷土芸能保存団体が集まり、それぞれが伝承する踊りを皆さまの前でご披露します。

今年のまつりのテーマは、「篠木神楽」「川前神楽」にスポットを当てた「岩鷲の里に神が舞う」となっています。

招待団体は「元村こどもさんさ愛好会」と八幡平市の「浅沢神楽保存会」、また、滝沢市出身の民謡歌手「藤岡祐衣」さんがゲストとして出演します。

そのほかにも駒踊りや田植踊り、さんさ踊りなど郷土芸能が盛りだくさんです。皆様のご来場をお待ちしています。

5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：ふるさと納税協定共通返礼品について、滝沢市産のりんごを使用した商品に関して、どこで製造しているものですか。

観光物産課長：原料は滝沢市産のりんごを100%使用しています。くずまきワインで醸造していただいております。今回、共通返礼品として採用させていただきました。

記者：自治体間でのふるさと納税にかかる同様の協定は県内で他に例はありますか。

観光物産課長：葛巻町と矢巾町、岩手町と八幡平市も同様の協定を締結しています。滝沢市では初となります。

記者：イノベーションフォーラムの定員は50人、70人どちらでしょうか。対象としてどのような方の参加を見込まれていますか。

企業振興課長：70人です。対象は、県内企業中心で、県立大学の学生にも声をかける予定です。県や振興局、近隣自治体職員にも案内する予定です。

経済産業部長：どこまでという制限はあまりなく、県外企業や、自治体、支援団体など、声かけできるところにはしていきたいと思っております。

記者：イノベーションフォーラムは今回で何回目ですか。

経済産業部長：回数までは数えておりませんが、イノベーションセンターが平成21年に開所し、コロナ禍には数回休止しましたが、開所当時から毎年開催しています。また、東京近郊の方々へ誘致も含めて「in 東京」ということで開催していたりもします。

企業振興課長：「フォーラム」と名をつけなくても、集まって講演を聞いたりするイベントも過去には開催しておりました。昨年は「イノベーションシンポジウム」という名称で県立大学の学園祭で開催しております。形式もその時のニーズに合わせて行っております。

記者：郷土芸能まつりについて、今回は神楽にスポットを当ててということですが、毎年テーマを決めているのですか。

文化振興課長：毎年テーマを決めて開催しております。昨年はさんさ、一昨年は田植え踊りがテーマでした。

記者：今回のテーマを選んだ理由はありますか。

文化振興課長：例年、郷土芸能保存団体とともに開催しており、同団体との会議の中で決定したものです。

記者：ふるさと納税に係る連携協定について、共通返礼品ということでコラボするというのですが、寄付金の流れは、要旨に記載されている11サイトから手続きすれば、滝沢市へ寄付されるということですか。

観光物産課長：お見込みの通りです。

6 その他記者からの当日質問

記者：物価高騰対策について、国で子育て応援手当やお米券など、全国自治体で行うよう予算配分していると思いますが、滝沢市の予定はいかがでしょうか。

市長：今のところは、住民1人あたり5千円の商品券をお配りする想定で進んでおります。お米券の選択肢もございますが、物価高騰が続いていますので、他の商品にも使用できるものとして、1,000円の商品券を5枚つづりとして考えています。

記者：今後の流れとしては、いつの議会で意見を出されるのですか。また、配布スケジュールなどは決まっていますか。

市長：1月29日の1月議会で上程させていただき、決まり次第、市民の皆さんへお配りしていきたいと思っています。

経済産業部長：実際にはこれからの作業になるので、できるだけ早く、とは思っていますが、年度を超えての事業になる見込みです。現時点での具体的なスケジュールは未定です。

記者：子供1人当たり2万円交付される子育て応援手当についても同じ時期に議会へ上程される見込みでしょうか。

市長：子育て応援手当については、現在調整中です。